

(様式5)

調査報告書

外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

訪問調査日	平成20年 11月 15日
調査実施の時間	開始 10時 00分 ～ 終了 14時 30分

訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム 中山の里 (鹿児島県)
-------------------	--------------------------

評価調査員の氏名	氏 名 中村 朋美 氏 名 福留 昭
事業所側対応者	職 名 管理者 氏 名 永野 洋子 ヒアリングを行った職員数 3 名

※記入方法

- 「取り組みの事実」欄は、ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入してください。
- 「取り組みを期待したい項目」欄は、今後、さらに工夫や改善が必要と思われる項目に○をつけてください。

※項目番号について

- 外部評価項目は30項目です。
○「外部」にある項目番号が外部評価の通し番号です。
- 「自己」にある項目番号は自己評価で該当する番号です。参考にして下さい。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。

関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年11月17日

【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定 第4670104050号		
法人名	有限会社 たすけあい鹿児島		
事業所名	グループホーム中山の里		
所在地	鹿児島市上福元町5933番地 (電話) 099-266-0003		
評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成20年11月15日	評価確定日	平成20年12月29日

【情報提供票より】(平成20年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 1月 5日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤 5人, 非常勤 14人, 常勤換算	15人

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨	造り
	2階建ての	～ 1・2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	300 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	18 名	男性 6 名	女性 12 名
要介護1	4 名	要介護2	8 名
要介護3	3 名	要介護4	3 名
要介護5		要支援2	
年齢	平均 83.27 歳	最低 74 歳	最高 90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	中山生協クリニック・迫口医院・大迫歯科・たかさお歯科
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

清潔で明るく季節感ある装飾品などさりげなく工夫がされ、気持ちよく過ごせる空間づくりができています。新鮮な食材を求め、日常的に市場で買い物をし、入居者の好きな刺身等の提供を行ない、食の楽しみを支援している。また個別に買い物や外食・ドライブなど入居者の行きたい所に外出できるよう取り組むなど、入居者の意向や個性・状況に応じた個々の支援をしている。今年度は、看護師の配置と24時間体制の医療連携体制を整え、入居者や家族・職員の更なる安心につながっている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価では、特に改善課題はなかった。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員会議などで評価の意義の理解を図っている。自己評価はスタッフ会議で一項目ずつ検討し意見を集約している。評価を活かし質の向上を図っている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議では、ホームの現況や取り組み・評価などの報告や話し合いがされている。認知症についての理解を深める場ともなっている。地域との交流など会議での意見を活かし、サービスの質の向上に取り組んでいる。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	意見箱の設置や家族会など、意見を表せる機会を設けている。家族の訪問時、意見を引き出すよう心掛けている。入居者の身の回りのことなどいろいろな意見を出してもらい、職員で検討して意見を反映させるよう取り組んでいる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ラジオ体操や夏祭りなどの地域行事の参加や保育園との交流・ホームの行事への招待・通所介護利用者との交流などが積極的に行なわれている。また、敬老の日に地域の高齢者に赤飯を配るなど、地域の代表者等と協働して地域交流に取り組んでいる。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初からの理念で「家庭的な雰囲気の中」「あるがままに地域の中で」「仲良く楽しく」暮らせることを目指している地域密着型サービスとしての理念である。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関や事務所・ホールに理念を掲示し、毎朝の理念の唱和などにより職員の意識付けを図っている。職員は理念をもとに日々支援できるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ラジオ体操や夏祭りなどの地域行事の参加、保育園との交流・ホームの行事への招待・通所介護利用者との交流などが積極的に行なわれている。また、敬老の日に地域の高齢者に赤飯を配るなど、地域の代表者等と協働して地域交流に取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員会議などで評価の意義の理解を図っている。自己評価はスタッフ会議で一項目ずつ検討し意見を集約している。評価を活かし質の向上を図っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、ホームの現況や取り組み・評価などの報告や話し合いがされている。認知症についての理解を深める場ともなっている。地域との交流など会議での意見を活かしサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者には、随時相談をしている。また、保護担当者や包括支援センターとの相談連携、介護相談員の受け入れなどもしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便りや金銭出納帳の写しなどで、暮らしぶりや金銭管理などを、毎月定期的に報告している。近況や健康状態など状況に応じて随時報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や家族会など意見を表せる機会を設けている。家族の訪問時、意見を引き出すよう心掛けている。入居者の身の回りのことなどいろいろな意見を出してもらい職員で検討して意見を反映させるよう取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が代わる場合は、紹介をきちんと行い、職員同士が連携を図りながら、入居者への影響への配慮を行なっている。職員が仕事がしやすい雰囲気が整ってきており、入居者との馴染みの関係もできている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員にも理解できるよう工夫した内部研修や資格に応じた研修、栄養や救急救命など実践につながる外部研修など学ぶ機会が確保され、外部研修の伝達研修もしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や職員は、地区の協議会の研修や交流会などに参加している。同業者とは、気軽に相談連携が図れる関係を築いており、共に質の向上に取り組んでいる。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前の面談で困っていることなど本人の把握に努めている。本人に事前のホーム見学をしてもらうなど、本人が納得して入居ができるよう努めている。職員の連携や言葉かけなど配慮しながら徐々に馴染めるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、感謝の気持ちを言葉などで表すようにしている。入居者は、職員にねぎらいの言葉や昔からの習わしごとなど教えたりしており、共に過ごし支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別にゆっくり話を聞き、話しやすい雰囲気づくりに努めている。日常的に言動や表情などから思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族・主治医・職員などで話し合い、本人本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画のモニタリングや評価・見直しを定期的に実施している。日々の引継ぎや記録など状態把握に努めている。心身の状態変化に応じ、随時担当者会議等で話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の意向や状況に応じて、通院支援や外出支援など柔軟な対応をしている。24時間の医療連携体制もある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医である。基本的には通院は家族対応であるが、意向や状況に応じ通院支援をしている。医療機関と家族と相談連携を図っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けたホームの対応方針がある。入居時に本人や家族の意向の確認をしている。本人や家族・医療機関・職員が状況に応じて随時話し合っている。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員には、会議や日常のケアのなかで、誇りやプライドを損ねない言葉かけや対応について意識付けを図り取り組んでいる。個人情報の取り扱いについても留意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の意向や状況に応じ、本人のペースを大切にした柔軟な支援をしている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物や食事の準備・片付けなど本人のできることをしてもらいながら、職員と共に食事を楽しんでいる。定期的に外食や弁当なども利用している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に週2から3回の入浴であるが、状況に応じて入浴を行う配慮をし、時間帯も希望に沿うよう支援している。声掛けを工夫し、気持ちよく入浴ができるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴を活かした家事などの役割づくりや、三味線・ピアノ・新聞・園芸・ドライブ・外食などの楽しみごとや気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物や通所介護への訪問など日常的に外出できるよう取り組んでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者の行動を見守りながら、常に目配り・気配りをして、日中は鍵をかけないケアを実践している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力のもと定期的に、避難・通報・初期消火の訓練を実施している。独自に避難訓練もしている。また昼夜想定訓練時には地域の協力依頼をし、備蓄など非常時の備えもある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事量や水分摂取量の把握をしている。とろみや刻み食などの形態の工夫などしている。時々栄養士からの栄養バランス等の助言など得ている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や装飾品など季節感を採りいれている。清潔で明るく居心地よい共用空間である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	子どもの絵画・テレビ・家族の写真・テーブル・お位牌・化粧道具などが持ち込まれ、それぞれが個性的であり、本人が居心地よく過ごせる居室となっている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNET に公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。